

第二回ブラジル長期留学報告書

国際バイオビジネス学科 4年竹中 奏絵

ブラジルに来てから丸4ヶ月が経った。第一回の報告書からあった出来事を書いていきたい。大きな出来事としては3つあり、これらに共通するキーワードは「言葉」だったと思う。

一つ目にマラニョン州への旅行だ。二年前ブラジルに初めて行くことが決まりブラジルについて調べていた時から行きたかった場所である。目的はレイソンス・マラニョンセス国立公園の雨期明けの5月から9月までに砂漠に出現する湖を見に行くことだった。普段暮らしているサンパウロから3000キロ近く離れたブラジル北部に位置し、またサンルイス飛行場からバンで近くの町まで移動、ツアーに参加するという移動時間だけで半日以上かかってしまう場所にある。実際現地に滞在したのは移動含め2日ほどととても短かったが、気候も周りの風景も全く違うことに圧倒されたとともに意外と日本人観光客もいることに驚いた。6月の初めに行った為日本の休みとは重なってないし、ましてブラジルの中でもアクセスが良くなく移動に時間がかかってしまうのだが何人か日本人を見かけた。またツアーの最後に会ったガイドの方は日系人で日本人が来た時にはその方がガイドをずっと言っていた。私たちが訪れた後にも日本から団体で旅行者が来ると言っていた。しかし基本的には現地語、英語でのガイドとなるのだが、日本人は英語が話せない人が多いのにテレビで紹介されたり、有名な観光地には必ず日本人がいるように思う。

二つ目はパラ州トメアスーでの研修だ。マラニョンを訪れた後、隣の州であるパラ州へとバスで向かった。ブラジルのバスは日本の長距離バスに比べてとても快適である。体格の問題もあるが日本人からすると一席がゆったりしている。そのためサンルイスからベレンまでの約13時間のバスだったが全くストレスなく移動が出来た。ベレンでOBである佐藤様と会い、そのままトメアスー行きのバスへ乗り換えた。ここでは自分が勉強している農業経営について約一か月7農家まわり研修した。二回目の場所だったためより詳しく話を聞くことが出来、農業経営、アグロフォレストリー、トメアスーの移住について調査が出来た。まだ日本語を話す方が多くおられ、日本語で書いてある資料があったり、加えてまだ日本語教育が続けられているため日本に近い環境だと感じる事がたびたびあった。

ブラジルの良いところはこの広大な国土をもち様々な気候があることだ。今回は北部の農業について研修したが、サンパウロやさらに南部の農業はまた違ったものだと思う。まだ他の地域での実習は行ってないため別の機会に行きたいと思う。ブラジルは日本のように地震や津波など時々洪水はあるが目立った自然災害は起こらない。日本人は起こりうる災害に備えて生活をしている。ブラジルにいたら“避難訓練”なんて言葉は聞かないし、日本で異常な災害が起こると現地のニュースで流れるほど異常なことである。トメアスーに

限らずブラジルに住んでいる多くの日系人は NHK を繋いでいる。トメアスーでは私が現地で繋いでいた電話会社は圏外だったため、テレビのニュースだけが情報源だったが 7 月の日本で起こった洪水は NHK で見て、また現地のニュースでも放送されていた。被害の規模が大きく、自然災害がない国にとってはやはり異常なことで考えられないことなのだと感じた。

三つ目は ESALQ で summer school という申し込めば、受けることが出来る英語でのプログラムに参加した。2 週間のプログラムだったがこのために短期留学のような形でドバイやイタリアから来ている学生がいた。多くは ESALQ の学生だが二学期から留学しに来た学生も参加していた。おそらく毎年行われるプログラムなので来年以降の ESALQ へ 8 月出発の学生がいた場合できれば 7 月中旬から渡航し、このプログラムを受けた上で二学期を始められると良いと考える。昨年短期プログラムに参加していたため私は知り合いがいる上での長期留学だったが、この summer school を受ければ ESALQ の学生や他の留学生とも出会うことが出来、おそらく外人登録の手続きの説明と一緒に聞くことが出来るため活用してほしい。

基本的に大まかなブラジル農業について、ESALQ が行っている研究について授業を受け、関係のある団体や研究所を訪れるという内容だった。朝 8 時ごろから遅いときは 7 時ぐらいいまで 2 週間みっちり詰まったスケジュールでの生活だった。私は英語が得意ではないため、内容を理解するのに必死だったが、参加しているほとんどの学生が母国語のように英語を使いこなしていて日本との差を感じた。留学経験のある学生もいたがそうでない学生もあり、どうしてここまで実践的に使いこなすことが出来るのか不思議だった。

英語で授業を受けることもなかなかきつuit と思ったが、一番は最終日に行われた英語でのグループプレゼンテーションである。丸一日の授業に加え、夜にグループのメンバーで集まりプレゼンテーションの内容決めを行った。何とかプレゼンテーションは終えることが出来、この 2 週間で私の英語に対する意識が変わったように思う。ブラジルでは英語は使わないと思っていたが、私は日本から来ている以上「留学生」で「外国人」となる。まだポルトガル語が満足に話せない以上英語は必須だと感じた。この学校の生徒ももちろん全員が英語を流ちょうに話せるわけではないが、内容別で 2 週間の授業を交代で受け持っていた先生や参加していた学生と交流して英語が話せることがこんなにも世界を広げることを痛感した。現在ポルトガル語を学んでいてその国についてもわかり始めているが、それを一言語だけで終わらすことは非常にもったいないのだと思った。

そして 8 月から 2 学期が始まった。今学期三つの授業を受けることにした。一つの授業につき 90 分、週に 2 日ある。現地の学生は学年にもよるが 8~10 個の授業を取り、また日本でいうインターンシップを行う。こちらの学生の時間割で行くと日本人のようにアルバイトをしている時間はないに等しい。このインターンシップは半年~一年行わなければならない、必修になっている。専門的なことを実践で学ぶことが出来るため社会に出たときに即戦力になる。こういう制度があることを知ると日本のインターンシップ制度が不思議なも

のに見えて仕方がない。日本にももっとこのような制度を取り入れてほしいと思う。

語学だけの留学ではない以上日々自分は何がしたいのか、しなければいけないのか問うことがとても多いし、この4ヶ月この生活で良かったのかと考えてしまうこともある。語学が上達したと感じる部分もあるが、次の課題がすぐに見えてくる。まだまだ出来ることはたくさんあると思うし、自分らしく残りの期間も頑張っていきたい



レイソンス国立公園①



レイソンス国立公園②



パッションフルーツの花



アグロフォレストリー（アサイー、胡椒、ドラゴンフルーツ）



Summer School で訪れた Rizen(サトウキビの工場)